



兵庫労働局発表  
令和元年5月30日

報道関係者 各位



[ 照会先 ]

兵庫労働局労働基準部安全課

課長 妹尾 裕治

広報担当官 濱田 一郎  
(安全専門官)

TEL (078) 367-9152

FAX (078) 367-9166

## 令和元年度 全国安全週間(注)の実施について

(7月1日～7月7日)

[スローガン] 新たな時代に PDCA みんなで築こう ゼロ災職場

兵庫労働局(局長 畑中啓良)では、全国安全週間(7月1日から7月7日(準備期間:6月1日から6月30日まで))期間中、安全パトロールや安全衛生表彰式等の取組を図ります。

### 全国安全週間(準備期間を含む)での主な取組

#### 安全パトロール(労働局長対応)

- (1)日 時 6月19日(水)午前10時から12時  
「兵庫地方労働審議会労働災害防止部会委員による労働安全パトロール(事業場視察)」  
場 所 Y K K六甲株式会社(神戸市東灘区向洋町西4丁目2番地)  
(重度障害者多数雇用事業所)【現地取材受入可能です(別添1)参照】
- (2)日 時 7月2日(火)午後1時30分から午後3時45分  
「局署・建災防<sup>[1]</sup>合同安全パトロール」  
場 所 戸田・岩田地崎特定建設工事共同企業体(神戸市長田区南駒栄町1-12)  
(工事名 西部処理場北系水処理施設築造工事)

[1]「建災防」…建設業労働災害防止協会兵庫県支部

なお、各労働基準監督署においても、安全パトロールを全国安全週間中に実施予定

### 兵庫労働局安全衛生表彰式

- ・日 時 7月4日(木)午後1時30分から午後2時20分
- ・場 所 神戸市産業振興センター(神戸市中央区東川崎町1-8-4)
- ・被表彰者 安全衛生に関する水準が優秀で他の模範である事業場、また、地域、団体の安全衛生の水準の向上発展に貢献をした個人等

- ・(注) 今年で 92 回目となる全国安全週間は、労働災害を防止するために産業界での自主的な活動の推進と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を目的としています。

事業場では、労使が協調して労働災害防止対策が展開されてきました。この努力によって、労働災害は長期的には減少していますが、全国では平成 30 年については、「死亡災害」は前年を下回る見込みですが、「休業 4 日以上之死傷災害」は 3 年連続で増加することとなりました。

また、兵庫県では、平成 30 年の「死亡災害」は平成 29 年を上回り、「休業 4 日以上之死傷災害」は 2 年連続で増加しました。

労働災害の防止のために、国、事業者、労働者などの関係者が重点的に取り組む事項を定めた「第 13 次労働災害防止計画（兵庫第 13 次労働災害防止推進 5 か年計画）」が、平成 30 年度を初年度として新たに展開されており、それぞれの事業場で一人の被災者も出さないという理念の下、日々の仕事が安全で健康的なものとなるよう、不断の努力が必要です。

また、平成 30 年 9 月には、企業での自主的な安全衛生管理のための取組を体系的かつ継続的に実施するための仕組みである労働安全衛生マネジメントシステムに関する日本工業規格（JIS Q 45001、JIS Q 45100、JIS Q 17021-10 及び JIS Q 17021-100）が制定されました。

このような状況を踏まえて、平成 31 年度（令和元年度）のスローガンでは、労働災害防止のために、事業者が労働者の協力の下に、マネジメントシステムの基本をなす「計画( Plan )-実施( Do )-評価( Check )-改善( Act )」（「PDCA サイクル」という。）という一連の過程を確立し、事業場での自主的な安全衛生管理をより一層推進するとともに、安全な職場環境を形成するよう呼びかけています。

兵庫労働局では、7 月 1 日（月）から 7 日（日）までの「全国安全週間」、6 月 1 日（土）から 30 日（日）までの準備期間において、労働安全に関する局長パトロールの実施、安全衛生表彰式の開催、スローガンの掲示など、さまざまな取組を行ってまいります。

(添付資料)・「平成 31 年度全国安全週間実施要綱（本省版）」

全国安全週間期間の取組
-------------

「兵庫地方労働審議会労働災害防止部会委員による労働安全パトロール」

(事業場視察)

長年無災害を継続している障害者多数雇用事業所の安全活動の取組状況について職場巡視を行います。
--

場 所 Y K K六甲株式会社(神戸市東灘区向洋町西4丁目2番地)  
日 時 令和元年6月19日(水)午前10時から12時まで

10時00分	開始
10時00分 ~ 10時05分	局長あいさつ
10時05分 ~ 10時10分	出席者紹介(司会より紹介)
10時10分 ~ 10時15分	Y K K六甲株式会社 社長あいさつ
10時15分 ~ 10時30分	労働災害発生状況の説明(労働局説明)
10時30分 ~ 10時50分	Y K K六甲より安全活動の取組説明(社長)
10時50分 ~ 11時30分	職場巡視(多くの障害者が勤務する印刷工場)
11時30分 ~ 12時00分	意見・要望事項
12時00分	終了あいさつ(司会)

現地取材、カメラ・写真撮影等可能です。

取材を希望される場合は、事前に人数の把握をするため、6月7日(金)午後5時まで、下記問い合わせ先までご連絡ください。

服 装 : 普段着OK、帽子、保護衣等の着用等必要ありません。

駐 車 場 : 要相談。(台数に限りがあります。)

【この件に関する問い合わせ先】

兵庫労働局労働基準部 安全課 安全専門官 濱田一郎 〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー16階 Tel : 078-367-9152 Fax : 078-367-9166
---

## 平成 31 年度全国安全週間実施要綱

### 1 趣 旨

全国安全週間は、昭和 3 年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、一度も中断することなく続けられ、今年で 92 回目を迎える。

この間、事業場では、労使が協調して労働災害防止対策が展開されてきた。この努力により労働災害は長期的には減少しているが、平成 30 年の労働災害については、死亡災害は前年を下回る見込みである。しかし、休業 4 日以上之死傷災害については、転倒災害の増加等により 3 年連続で、前年を上回る見込みである。業種別では陸上貨物運送事業や第三次産業で増加率が高く、事故の型別では「転倒」や熱中症を中心とする「高温・低温の物との接触」で増加率が高くなっている。これらの要因としては基本的な安全対策が不十分なことによる災害の発生や、業種を問わず増加を続けている転倒災害が冬季を中心に発生していることが考えられる。

また、近年増加している高年齢労働者対策や、今後増加が見込まれる外国人労働者対策をはじめとする、就業構造の変化及び働き方の多様化に対応等も考慮した、日々の仕事が安全なものとなるような取組が求められる。

このような状況を踏まえ、更なる労働災害の減少を図ることを決意して、平成 31 年度全国安全週間は、以下のスローガンの下で取り組む。

### 新たな時代に PDCA みんなで築こう ゼロ災職場

### 2 期 間

7 月 1 日から 7 月 7 日までとする。

なお、全国安全週間の実効を上げるため、6 月 1 日から 6 月 30 日までを準備期間とする。

### 3 主唱者

厚生労働省、中央労働災害防止協会

### 4 協賛者

建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会

### 5 協力者

関係行政機関、地方公共団体、安全関係団体、労働組合、経営者団体

### 6 実施者

各事業場

### 7 主唱者、協賛者の実施事項

全国安全週間及び準備期間中に次の事項を実施する。

(1) 安全広報資料等の作成、配布を行う。

- (2) 様々な広報媒体を通じて広報を行う。
- (3) 安全パトロール等を実施する。
- (4) 安全講習会等を開催する。
- (5) 安全衛生に係る表彰を行う。
- (6) 「国民安全の日」(7月1日)の行事に協力する。
- (7) 事業場の実施事項について指導援助する。
- (8) その他「全国安全週間」にふさわしい行事等を行う。

## 8 協力者への依頼

主唱者は、上記7の事項を実施するため、協力者に対し、支援、協力を依頼する。

## 9 実施者の実施事項

安全文化を醸成するため、各事業場では、次の事項を実施する。

### (1) 全国安全週間及び準備期間中に実施する事項

- ①安全大会等での経営トップによる安全への所信表明を通じた関係者の意思の統一及び安全意識の高揚
- ②安全パトロールによる職場の総点検の実施
- ③安全旗の掲揚、標語の掲示、講演会等の開催、安全関係資料の配布等の他、ホームページ等を通じた自社の安全活動等の社会への発信
- ④労働者の家族への職場の安全に関する文書の送付、職場見学等の実施による家族の協力の呼びかけ
- ⑤緊急時の措置に係る必要な訓練の実施
- ⑥「安全の日」の設定のほか全国安全週間及び準備期間にふさわしい行事の実施

### (2) 継続的に実施する事項

#### ① 安全衛生活動の推進

##### ア 安全衛生管理体制の確立

- (ア) 年間を通じた安全衛生計画の策定、安全衛生規程及び安全作業マニュアルの整備
- (イ) 経営トップによる統括管理、安全管理者等の選任
- (ウ) 安全衛生委員会の設置及び労働者の参画を通じた活動の活性化
- (エ) 労働安全衛生マネジメントシステムの導入等によるPDCAサイクルの確立

##### イ 職業生活における安全衛生教育計画の樹立と効果的な安全衛生教育の実施等

- (ア) 経営トップから第一線の現場労働者までの階層別の安全衛生教育の実施、特に、雇入れ時教育の徹底及び未熟練労働者に対する教育の実施
- (イ) 就業制限業務、作業主任者を選任すべき業務での有資格者の充足
- (ウ) 災害事例、安全作業マニュアルを活用した教育内容の充実
- (エ) 労働者の安全作業マニュアルの遵守状況の確認

##### ウ 自主的な安全衛生活動の促進

- (ア) 発生した労働災害の分析及び再発防止対策の徹底
- (イ) 職場巡視、4S活動(整理、整頓、清掃、清潔)、KY(危険予知)活動、ヒヤリ・ハット等の日常的な安全活動の充実・活性化

##### エ リスクアセスメントの実施

- (ア) リスクアセスメントによる機械設備等の安全化、作業方法の改善
- (イ) SDS(安全データシート)等により把握した危険有害性情報に基づく化

学物質のリスクアセスメント及びその結果に基づく措置の推進（「ラベルでアクション」の取組の推進）

オ その他の取組

(ア) 安全に係る知識や労働災害防止のノウハウの着実な継承

(イ) 外部の専門機関、労働安全コンサルタントを活用した安全衛生水準の充実

② 業種の特성에応じた労働災害防止対策

ア 建設業における労働災害防止対策

(ア) 一般的事項

a 足場等からの墜落・転落防止対策の実施、手すり先行工法の積極的な採用、改正された法令に基づくフルハーネス型墜落制止用器具の積極的な導入と適切な使用

b 職長、安全衛生責任者等に対する安全衛生教育の実施

c 元方事業者による統括安全衛生管理、関係請負人に対する指導の実施

d 建設工事の請負契約における適切な安全衛生経費の確保

(イ) 東日本大震災及び平成 28 年熊本地震に伴う復旧・復興工事の労働災害防止対策

a 輻輳工事における適正な施工計画、作業計画の作成及びこれらに基づく工事の安全な実施

b 一定の工事エリア内で複数の工事が近接・密集して実施される場合、発注者及び近接工事の元方事業者による工事エリア別協議組織の設置

イ 製造業における労働災害防止対策

(ア) 機械の危険部分への覆いの設置等によるはさまれ・巻き込まれ等防止対策の実施

(イ) 機能安全を活用した機械設備安全対策の推進

(ウ) 作業停止権限等の十分な権限を安全担当者に付与する等の安全管理の実施

(エ) 装置産業の事業場における高経年施設・設備の計画的な更新、優先順位を付けた点検・補修等の実施

(オ) 製造業安全対策官民協議会で開発された、多くの事業場で適応できる「リスクアセスメントの共通化手法」の活用等による、自主的なリスクアセスメントの実施

ウ 林業の労働災害防止対策

(ア) チェーンソーを用いた伐木及び造材作業における保護具、保護衣等の着用並びに適切な作業方法の実施

(イ) 木材伐出機械等を使用する作業における安全の確保

エ 陸上貨物運送事業における労働災害防止対策

(ア) 荷台等からの墜落・転落防止対策、保護帽の着用の実施

(イ) 積みおろしに配慮した積み付け等による荷崩れ防止対策の実施

(ウ) 歩行者立入禁止エリアの設定等によるフォークリフト使用時の労働災害防止対策の実施

(エ) トラックの逸走防止措置の実施

(オ) トラック後退時の後方確認、立ち入り制限の実施

オ 小売業、社会福祉施設、飲食店等の第三次産業における労働災害防止対策

(ア) 全社的な労働災害の発生状況の把握、分析

(イ) 経営トップの意向を踏まえた安全衛生方針の作成、周知

(ウ) 職場点検、4 S 活動（整理、整頓、清掃、清潔）、K Y（危険予知）活動、

- 危険の「見える化」、ヒヤリ・ハット活動等の安全活動の活性化  
(エ) 安全衛生担当者の配置、安全衛生教育の実施、安全意識の啓発
- ③ 業種横断的な労働災害防止対策
- ア 転倒災害防止対策（STOP！転倒災害プロジェクト）
- (ア) 作業通路における段差や凹凸、突起物、継ぎ目等の解消
  - (イ) 照度の確保、手すりや滑り止めの設置
  - (ウ) 危険箇所の表示等の危険の「見える化」の実施
  - (エ) 転倒災害防止のため安全衛生教育時における視聴覚教材の活用
- イ 交通労働災害防止対策
- (ア) 適正な労働時間管理、走行計画の作成等の走行管理の実施
  - (イ) 飲酒による運転への影響や睡眠時間の確保等に関する安全衛生教育の実施
  - (ウ) 災害事例、交通安全情報マップ等を活用した交通安全意識の啓発
  - (エ) 飲酒、疲労、疾病、睡眠、体調不良の有無等を確認する乗務開始前の点呼の実施
- ウ 高年齢労働者、外国人労働者等に対する労働災害防止対策
- (ア) 雇入れ時教育の徹底・内容の充実
  - (イ) 非正規雇用労働者、技能実習生等の外国人労働者を含めた安全管理の徹底や安全活動の活性化（ウ）母国語や視聴覚教材の活用等、外国人労働者に理解できる方法による安全衛生教育の実施
  - (エ) 派遣労働者における派遣元・派遣先責任者間の連絡調整の実施
  - (オ) 高年齢労働者に配慮した職場改善の実施
- エ 熱中症予防対策（STOP！熱中症 クールワークキャンペーン）
- (ア) WBGT値（暑さ指数）の把握とその結果に基づく適正な作業環境管理、休憩時間の確保を含む作業管理の実施
  - (イ) 計画的な熱への順化期間（熱に慣れ、その環境に適応する期間）の設定
  - (ウ) 自覚症状の有無にかかわらず水分・塩分の積極的摂取
  - (エ) 熱中症の発症に影響を与えるおそれのある疾患（糖尿病等）を有する者に対する配慮、日常の健康管理や健康状態の確認
  - (オ) 熱中症予防に関する教育の実施
  - (カ) 異常時の速やかな病院への搬送や救急隊の要請
  - (キ) 熱中症予防管理者の選任と職場巡視等